
これからはじめる防災対策・5
～首都圏水没について～

●豪雨が首都圏を襲ったら？

首都圏水没とは、将来、首都圏で起きる可能性のある大規模水害のことです。荒川や利根川の堤防が決壊したり高潮が襲ったら、どの地域が水没するか、政府によってシミュレーションされています。

利根川が氾濫した場合、埼玉県加須市から東京都江戸川区まで最大約530平方キロメートルという地域で浸水が発生する可能性があります。東京都23区の面積は約620平方キロメートルですから、その影響の大きさがわかります。

●広域避難とはいうけれど

もし上記の水害が発生した場合、膨大な数の避難者が発生します。浸水区域内の人口は、約230万人にもものぼります。住んでいる市区町村内の避難所が使用できなくなるため、市区町村外への“広域避難”が必要とされています。

大勢の人々をどこにどのような手段で避難させるかについて、検討されていますが具体策は決まっていません。

●首都圏水没に備える

首都圏の大規模水害については、被害発生の予測が可能であり、堤防決壊から浸水被害の発生までに時間があります。避難先をあらかじめ決めておけば、早目の避難行動が可能になります。

浸水が予想されていない地域にある家族・親戚、友人・知人の家など、避難できる場所を確保しておきましょう。これは首都圏のみならず、水害の恐れがある地域で暮らす皆さんも考えておきたいものです。

内閣府『大規模水害対策に関する専門調査会報告の概要』
<http://s360.jp/c/7Cd/g5/hR/Jj/Rq/>

●家庭での浸水対策

自宅で小規模な浸水が発生する可能性がある場合、ゴミ袋に水を入れて作る「水のう」で、自宅への浸水や、室内にある排水溝の逆流予防ができます。

家庭でできる浸水対策を紹介している市町村も多々ありますので、お住まいの市町村のホームページをご確認ください。

(一例) 三鷹市『身近なものでできる水防対策』

<http://s360.jp/c/7Cd/g6/hR/Jj/Rr/>

浸水の恐れがある場合、避難場所への移動は浸水する前が基本となります。
国土交通省によると、浸水した水の速さが速いほど、
水の深さが浅くとも安全に歩いて避難できなくなります。
たとえば水の深さが大人の膝丈（約50cm）でも、
水の速さが0.7m/秒程度で、避難が困難になります。

（一財）防災教育推進協会 笠間 正弘